

複式第1・2学年 国語科学習指導案

I組 1年 男子4名 女子 4名
2年 男子3名 女子 4名 計15名
指導者 中野 晶 仁

- 1 単 元 あいうえおで あそぼう (1年光村上)
お話を読んで、かんそうを書こう (教材「スイミー」2年光村上)

2 単元について

(1) 単元の位置とねらい

(第1学年)

この期の子どもたちは、これまで「うたにあわせて あいうえお」で、ひらがなを語のままとまりや言葉の響きなどに注意して音読する能力を身に付けている。さらに、言葉のおもしろさを楽しみながら声に出して読みたいという願いをもっている。

そこでここでは、五十音表を基にした言葉遊びを通してひらがなを正しく読んだり書いたりする能力を高めると共に、まとまりや内容、言葉のおもしろさを楽しみながら音読しようとする態度を身に付けさせたいと考え、本単元「あいうえおで あそぼう」を設定した。

この学習は、ひらがなで母音を含む単語を読んだり書いたりする「ひらがな あつまれ」の学習へと発展するものである。

(2) 指導の基本的な立場

教材「あいうえおで あそぼう」は、あいうえおを使った遊び歌と五十音表を基にした言葉遊びで構成されている。平仮名が読めるようになり言葉についての関心が高まってきているこの期の子どもたちに、改めて平仮名を五十音表で整理するのに適した教材である。また、遊び歌や言葉遊びを通して、言葉のリズムや繰り返し心地よさを味わったり、語彙を増やしたりしやすい教材である。

そこで、本単元では、五十音表を基に、子どもたちが楽しく歌遊びや言葉遊びをする中で語彙を増やすとともに、それらを正しく読んだり書いたりさせることが大切である。

具体的にはまず、「あいうえおのうた」を読ませ、リズム、繰り返しなどの楽しさに気付かせ、単元の目標を設定させる。

次に、「五十音表」の特徴を考えさせる。その際、口形に気をつけて様々な読み方をさせることで親しませると共に、横に読むと同じ列の音

(第2学年)

この期の子どもたちは、これまで「音読しよう」で、場面の様子について、人物の様子や会話を中心に動作化や役割読みをしながら想像を広げながら読む能力を身に付けている。さらに、自分が読んだ物語の感想を相手に分かりやすく伝えたいという願いをもっている。

そこでここでは、登場人物の行動や場面の様子について場面を比較することで想像を広げながら読む能力を高めると共に、物語を読んだ感想を基に友達に本を紹介しようとする態度を身に付けさせたいと考え、「お話を読んで感想を書こう」(教材「スイミー」)を設定した。

この学習は、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読み、登場人物の紹介文を書く「本は友達」の学習へと発展するものである。

教材「スイミー」は、スイミーが知恵と勇気を発揮し、仲間と力を合わせて平和を取り戻す物語である。スイミーの行動は、徐々に友達とのかかわりを大切にするようになってきているこの期の子どもたちの共感を得やすく、感想をまとめるのに適した教材である。また、スイミーの行動によって場面が展開していく構成、体言止めや倒置法、比喩などによって海の様子が生き生きと書かれており、場面の様子について想像を広げて読みやすい教材である。

そこで、本単元では、場面ごとのスイミーの行動への感想をまとめさせ、伝え合わせることで互いの思いを分かち合わせたり、感じ方・考え方を認め合わせたりすることが大切である。

具体的にはまず、「スイミー」を読んだ感想を書かせ、発表させる。その際、よく書けた部分と書けなかった部分を基に課題を見つけさせ、単元の目標を設定させる。

次に、「スイミー」を場面ごとに読み、グルー

は全部同じ母音が残ることに気付かせる。また、「しりとり遊び」「言葉集め」などを通して語彙を増やしたり、新たに知った言葉を書く活動を通して正しい文字を書いたりすることができるようにさせる。その際、一人で考えさせるだけでなく、互いに知っている言葉を教え合ったり、書きためてきた五十音カードの言葉を増やしたりする活動を通して、学級全体を高めていく。

さらに、同時終末を設定し、1年生は「自分たちが作った『あいうえおのうた』」について、2年生は「自分が気に入ったレオ＝レオニの作品の感想」について、同学年間や異学年間で発表し合い、意見交換を行わせる。

異年齢集団での学びのよさを促進し、上学年・下学年のかかわりを深めるために、単元の導入、展開では学年別指導、終末では一斉指導を行う。また、少人数での学びのよさを促進し、同学年のかかわりを深めるために、間接指導時には、ガイド学習を行い、相手に分かりやすい伝え方、相手と自分の考えを比較する聞き方・問い返し方を発揮させ、考えを強固・付加・修正させる。

このような学習を通して、まとめを意識しながら課題を解決しようとしたり、時間配分などの見通しをもったりしながら(計画性の向上)、グループ内外で自他の考えを尊重する意見交換を行い(協調性の向上)、役割に応じた学び方を発揮させ(責任感の高揚)、自分の考えが友達のどのような考えに影響されたか、自分が友達の考えにどのような影響を与えることができたかを振り返り、学習に対する成就感や達成感(自己肯定感の醸成)を味わうことができると考える。

(3) 子どもの実態

本学級の子どもたちが、本単元の学習をどのように受け止め、どのような興味・感心をもっているかを調査した結果は、以下の通りである。なお、()内の数字は人数を示す。

第1学年	第2学年
① 五十音表の理解 ○並び方を全て理解している(2) ○途中まで理解している(6) ○全く理解していない(0) ② 平仮名を読む ○全て読むことができる(8) ③ 口形よく発音 ○できる(6) ○できない(2) ④ 言葉集め(○からはじまる言葉) ○5個以上(4名) ○2～4個(2名) ○1個以下(2名) ⑤ しりとり ○5個以上(4名) ○2～4個(4名) ○1個以下(0名) ⑥ 「あいうえおの歌」作り ○四・四・五のリズムで作る(4) ○語尾の一致(0) ○作れない(4) ⑦ 平仮名を書く ○全て書くことができる(1名) ○ところどころまちがえる(7名)	① 初発の感想(複数回答) ○スイミーは一人になってかわいそう(4) ○大きな魚を追い出せてよかった(4) ○スイミーは、頭がよくてすごい(2) ○一人だけ黒くてかわいそう(2) ② 「スイミー」の内容理解 ○兄弟が食べられた→一人になった→仲間と協力して大きな魚を追い出した(5) ○小さい魚が食べられる話(1) ○かわいそうな話(1) ○みんなで力を合わせる話(1) ③ レオ＝レオニの作品の読書経験 ○ある(2)・・・スイミー ○ない(6) ④ 紹介したい相手(複数回答) ○お相手さん(6) ○家族(4) ○友達(3) ⑤ 紹介したい方法(複数回答) ○劇(6) ○紙芝居(3) ○ペープサート(2)

子どもたちの多くは、五十音の並びがあることや、並び方を途中まで理解することはできている。つまりきのある子どもたちの多くは「た行」

づごとに行動や会話などから、海の中の様子やスイミーの気持ちを読み取らせる。その際、グループで話合う場を設定し、一人一人に役割に応じた発言をさせることで、多面的に考えさせ、読みを深めさせる。また、スイミーに対してどのようなことを伝えたいかを手紙形式でまとめさせることで、共感的な感想をもつことができるようにする。

プごとに行動や会話などから、海の中の様子やスイミーの気持ちを読み取らせる。その際、グループで話合う場を設定し、一人一人に役割に応じた発言をさせることで、多面的に考えさせ、読みを深めさせる。また、スイミーに対してどのようなことを伝えたいかを手紙形式でまとめさせることで、共感的な感想をもつことができるようにする。

プごとに行動や会話などから、海の中の様子やスイミーの気持ちを読み取らせる。その際、グループで話合う場を設定し、一人一人に役割に応じた発言をさせることで、多面的に考えさせ、読みを深めさせる。また、スイミーに対してどのようなことを伝えたいかを手紙形式でまとめさせることで、共感的な感想をもつことができるようにする。

プごとに行動や会話などから、海の中の様子やスイミーの気持ちを読み取らせる。その際、グループで話合う場を設定し、一人一人に役割に応じた発言をさせることで、多面的に考えさせ、読みを深めさせる。また、スイミーに対してどのようなことを伝えたいかを手紙形式でまとめさせることで、共感的な感想をもつことができるようにする。

プごとに行動や会話などから、海の中の様子やスイミーの気持ちを読み取らせる。その際、グループで話合う場を設定し、一人一人に役割に応じた発言をさせることで、多面的に考えさせ、読みを深めさせる。また、スイミーに対してどのようなことを伝えたいかを手紙形式でまとめさせることで、共感的な感想をもつことができるようにする。

プごとに行動や会話などから、海の中の様子やスイミーの気持ちを読み取らせる。その際、グループで話合う場を設定し、一人一人に役割に応じた発言をさせることで、多面的に考えさせ、読みを深めさせる。また、スイミーに対してどのようなことを伝えたいかを手紙形式でまとめさせることで、共感的な感想をもつことができるようにする。

プごとに行動や会話などから、海の中の様子やスイミーの気持ちを読み取らせる。その際、グループで話合う場を設定し、一人一人に役割に応じた発言をさせることで、多面的に考えさせ、読みを深めさせる。また、スイミーに対してどのようなことを伝えたいかを手紙形式でまとめさせることで、共感的な感想をもつことができるようにする。

子どもたちの多くは、スイミー着目し、内容と関連付けた感想をもつことができている。しかし、比喩表現や体言止めなどの技法に着目し

から後ろの記憶が曖昧になっている(①)。平仮名を読むことはできている。しかし、口形よく正しい発音ができていない子どももいる(②③)。「言葉集め」や「しりとり」などの言葉遊びについては個人差が大きいことが分かる(④⑤)。これは、これまでの生活経験の差によるものが大きいと考える。また、語尾をそろえて歌を作ることにについては、一人もできなかった(⑥)。これは、語尾をそろえる経験のなさや、語彙の少なさによるものと考え。平仮名を書くことはできるようになってきつつあるが、定着までは至っていない(⑦)。

(4) 指導上の留意点

ア それぞれの文字から始まる言葉のグループで協力してたくさん集めさせるために(協力、伝え合う)、「歌遊び」や「しりとり」などを行わせ、五十音の確実な定着や語彙の増加を図る。

イ 伝え合いを通して自分の苦手な文字に気付かせるために(批判、伝え合う)、「歌遊び」や「しりとり」などの際を書く活動を取り入れ、平仮名を書くことを定着させる。

ウ 学習に対する達成感・成就感を味わわせるために(目標整合、参加)、まず、単元の導入時に「あいうえおのうた」を作らせ、自己の課題を明らかにする。次に、展開時に言葉集めを通した自分の語彙の広がりやあいうえおのうた作りについての進捗状況をとらえさせる。最後に、グループごとに「あいうえおのうた」を発表させ、同学年間や異学年間で自他の成長を伝え合わせる。

エ 単元の特性、複式学級における「少人数」「異年齢集団」などの特性を生かした指導を行うために(つながり)、単元の導入と展開においては学年別指導、終末では一斉指導を行う。学年別指導の間接指導時には、1年生は、ガイドの子どもを中心に学習を進めさせる。2年生においては、ガイドの子どもを中心に学習を進めさせたり、グループでの話し合いの際に簡単な役割(リーダー、質問係、記録係、発表係)を設定したりする。それらを基に意見を交流し、互いのかかわりを深めることで自他の考えが強固・付加・修正したことに気付かせる)。

3 目 標

(1) 五十音表を基に、友達と協力しながら言葉遊びや歌作りを楽しむことができる。

(2) 同じ観点で五十音表から言葉を見つけ、建設的に話し合うことができる。

(3)ア 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて、音読することができる。

イ 五十音表から見つけた言葉を、平仮名で正しく書くことができる。

(4) 異学年の交流を通して、1年生は自分たちが作った「あいうえおの歌」を発表すること、2年生はレオ＝レオニの作品を分かりやすく紹介することができる。

た感想をもっている子どもはいない。また、「すごい」「よかった」など、具体性を欠く感想がほとんどであった(①)。「スイミー」の内容理解については、順序よく伝えられる子どもが多かった。これは、難語句が少なく分かりやすい物語であることによると考える(②)。レオ＝レオニの作品の読書経験は少ない(③)。紹介したい相手としては「お相手さん」と答えた子どもが多く、上学年として一年生に教えてあげたいと考えている子どもが多いことが分かる。紹介方法としては、これまでに経験したものが多く挙げられている(④⑤)。

ア 場面の様子について想像を広げて読ませ、そのよさを話し合わせるために(協力、伝え合う)、比喩表現や倒置法などの表現技法に着目させる。

イ 感想を豊かに表現させたり自他の感想のよさに気付かせたりするために(批判、伝え合う)、感想に用いるとよい言葉を表にまとめさせ、感想を書く際に使用させる。

ウ 学習に対する達成感・成就感を味わわせるために(目標整合、参加)、まず、単元の導入時にスイミーの感想を書かせ、自己の課題を明らかにする。次に、展開時にスイミーを読み取った後の感想を伝え合わせ、感想を書くことについての進捗状況をとらえさせる。最後に、レオ＝レオニの作品を並行読書させて自分の感想を書かせ、発表会で同学年間や異学年間で本の紹介を行わせ同学年間や異学年間で自他の成長を伝え合わせる。

(1) レオ＝レオニの作品の読書をした感想を基に、友達に紹介しようとするすることができる。

(2) 感想を自他で比較し、自他の考えの共通点を建設的・協調的に話し合うことができる。

(3)ア 登場人物の行動や会話から、場面の様子を想像して読むことができる。

イ 大事な叙述や文を書き抜きながら、感想を書くことができる。

4 指導計画（第1学年5時間、第2学年10時間）

過程	学習課題・主な学習活動（第1学年）	学習課題・主な学習活動（第2学年）
つかむ・みとめ	1 単元の目標設定① ・ 試行活動《診断的な振り返り》 「あいうえおのうた」の試し作り もっとたくさんの言葉を知らないで、歌を作ることはできないぞ。 作った歌を去年作った2年生（お相手さん）に発表して、聞いてもらいたいな。 「あいうえおのうた」をつくって、2ねんせいにはっぴょうしよう。	1 単元の目標設定① ・ 試行活動《診断的な振り返り》 「スイミーの感想」の試し作り 感想を書いたけれど、どのように書いたらよいのか分からず、難しかったな。 1年生にも分かるような感想を書いて、読書の楽しさを教えてあげたいな。 レオ＝レオニの本を読んで、1年生に紹介しよう。
しらべる・ふかめる	2 言葉集め②（本時2/5） ○ 五十音表を使った言葉集め ○ ○から始まる言葉集め →・自分の名前の文字から始まる言葉集めと自己紹介 ○ しりとりゲーム ○ 一文字違いの言葉集め ○ 同じ行の言葉集め →・リズム・語尾の合っている言葉集め《形成的な振り返り》 3 「あいうえおのうた」作り① ○ グループごとにリズム・語尾を合わせた歌作り	2 「スイミー」の読み取り⑥（本時6/10） ○ 場面ごとの読み取り →・スイミーの気持ち ・海の中の様子 ・各場面において、スイミーに伝えたいこと ○ 感想の記述（紹介文作成） ○ 感想の交流（「スイミーの紹介」）《形成的な振り返り》 3 レオ＝レオニの作品の感想② ○ 感想の記述（紹介文作成） ○ 感想の交流
ふりかえる・いかす	4 合同発表会をして、意見や感想の交流を行う。①《総括的な振り返り》 レオ＝レオニさんの本はおもしろそうだから、読みたくなったよ。 みんなでたくさんの言葉を出し合って、言葉の後ろをそろえることができたよ。	1年生の「あいうえおのうた」、しっかりとリズムが合っていたよ。 レオ＝レオニさんの本を読むと、仲間を大切にしようって思えてくるなあ。

複式

5 本 時（第1学年：2／5、第2学年：6／10）

(1) 目 標

五十音表を基に自分の名前の文字を使った言葉を集め、友達に自己紹介することを通して、語彙を増やすことができる。

スイミーたちの会話や行動を基に、大きな魚を追いつけることができた理由を友達と協力して考え、感想を伝え合うことができる。

(2) 指導に当たって

友達と互いに知っている言葉を伝え合わせるために（批判、伝え合う）、これまで作成してきた五十音カードを基に考えさせたり、友達と相互に知っている言葉を教え合わせたりさせる。

話し合いを深めさせるために（批判、伝え合う）、板書を基に見通しをもたせて話し合う場面を焦点化したり、互いの考えのちがいに着目させて質問させたりする。

学年別指導の中で、ガイドの司会による話し合いを中心とした学習を行う。その際、小黒板にまとめる視点（1年生：一枚の小黒板に一つの言葉、2年生：教材文とその理由）を明確にし、話し合いを深めさせる。また、終末段階では、共通点を見いだす際の仲間分けの場面の話し合いの深まりを称賛し、相互に交流したことで自分の考えを「強固・付加・修正」したことに気付かせたい。

(3) 実 際

主な学習活動（第1学年）	教師の位置と具体的な働きかけ	主な学習活動（第2学年）
1 本時の学習課題を設定する。 (1) 「あいいうおのうた」を音読し、課題意識をもつ。 (2) 教師のモデルを基に、学習課題を設定する。 じぶんのなまえのもしをつかって、じこしょうかいができるかな。 2 学習の流れを確認する。 3 五十音表を基に、言葉を集めて自己紹介をする。 なかなか言葉が見つからない友達には、自分が知っている言葉を教えてあげよう。 あ→あさ、あかるい、あいさつ き→きまり、きつて、 ひ→ひまわり、ひこうき と→とんねる、とぶ、となかい 「き」は、「きたい」とか「きつつき」とかもあるよ。 ほんとうだ。おしえてくれてありがとう。 集めた言葉のうち、どの言葉を、どんなふうに使えば自己紹介できそうかな。 「あいさつ」と「きまり」をつかいたいけど、そのままだとうまくいかないよ。 「あいさつがだいすきで」として、ことばをつなげてみたらどうかな。 あいさつがだいすきで、きまりもまもる、ひこうきにのってとんでみたい「あきひと」です。 どうしたら、うまく自己紹介をすることができたのかな。 共通点 ○ 言葉をたくさん集める。 ○ 見つけた言葉が自分に合うか考える。 ○ 言葉がつながるように形を変える。 4 本時のまとめを行う。 ごじゅうおんひょうであつめたことばのかたちをかえて、ぶんになおす。 5 自己紹介して考えたことを、同学年間で交流する。 ともだちにじぶんにあうことばをおしえてもらったおかげで、うまくできてよかったな。(修正)	教師の位置と具体的な働きかけ 直接指導 (分) 1 課題意識や見通しをもたせるために(目標整合、計画)、「あいいうおのうた」を音読して前時の学習を想起させ、たくさん言葉を集めることの必要性を想起させる。 3 建設的に話し合いを進めさせるために(批判)、自分が集めた言葉を黒板に貼り出させたり、不足している友達にこれまで集めてきた五十音カードを基にアドバイスさせたりする。 15 互いの考えをくみ取らせるために(批判、伝え合う)、自己紹介することができている子どもの紹介文を示し、文をつなげる方法を話し合わせる。 4 自分の自己紹介をよりよいものにしていくために(協力、伝え合う)、たくさんの友達に自分の自己紹介をする場面を設定し、伝え合わせる。 8 ガイド役を中心に学習の共通点を見出させるために(目標整合、計画)、めあてを想起させ、自己紹介するまでを振り返らせる。 10 自他の考えを「強固・付加・修正」することができたことに気付かせるために(参加)、同学年間で、互いの考えの感想を伝え合わせる。 間接指導 1 課題意識や見通しをもたせるために(目標整合、計画)、どのようなまとめになりそうかを問い、スイミーたちの行動に着目して考えさせる。 4 協同的に話し合いを進めさせるために(批判)、小黒板のまとめ方を「教材文・理由」と示したり、スイミーたちの行動が表れている三つの場面を黒板に示し、話し合う場面の焦点化を図ったりする。 4 考えや意見を分かりやすく発表するために(批判、伝え合う)、グループ内で役割に応じて質問し合うなど吟味した上で全体に発表させる。 8 考えを深めさせるために(伝え合う、つながり)、「スイミーが目になった理由」を問い、自己の体験などと比較させて「スイミーの強い意志」に気付かせるようにする。 10 自他の感想の相違点に着目させるために(つながり)、スイミーにかけたい言葉とその理由を伝え合わせる。	1 本時の学習課題を設定する。 (1) 教材文を音読し、感想を伝え合う。 (2) 感想を基に、本時の学習課題を設定する。 どうしてスイミーたちは、大きな魚をおいだすことができたのだろうか。 2 学習の流れを確認する。 3 「大きな魚をおいだすことができた理由」を話し合う。 【教材文】 ○みんながーびきの大きな魚みたいにおよげようになった。 【理由】 ○時間をかけて練習したのだから。 【教材文】 ○ぼくが目になろう。 【理由】 ○色の違うスイミーが目になったから、本当の魚のように見えただよ。 【教材文】 ○あさのつめたい水の中 ○ひるのかがやく光の中 【理由】 ○あさもひるも、ずうとおよいでいるから、大きな魚もあきらめたんだ。 スイミーたちのねばり強さ スイミーの知え スイミーたちのきょう力 うんと考えて、みんなで、大きな魚をおい出そうとした 共通点 スイミーが目になったのは、「色がみんなとちがって黒いから」だけなのかな。 スイミーは、自分がリーダーになって、強い気持ちでみんなをひっぱろうと思ったのではないかな。 4 本時のまとめを行う。 大きな魚をおい出そうというスイミーのつよい気持ちに、みんながなつとくしてきょう力したから。 5 スイミーにどんな言葉をかけたいか考え、話し合う。 自分が目になろうなんて、思いつくところがすごいね。きっと、スイミーの何かしなくてはというすがたをみて、みんな協力したんだよ。 スイミーたちを見て、みんなで協力することの大切さが分かった。私も学級の友達とみんなで知恵を出し合って、いい学級にしていこうと思ったよ。 6 自己評価を行い、本時の学習で考えたことを交流する。 スイミーが目になった理由として、自分の責任を果たそうとする気持ちがあつたと書いてある友だちの考えに納得した。(付加)